

# 社会的責任を果たすCSR活動

## お客様への取り組み

日本化薬グループでは、お客様に最良の製品を提供するために、製品やサービスの安全性・信頼性に配慮しています。

アクションプラン  
・信頼性を確保する

評価



2012年度の目標  
・「日本化薬と医療機関などとの関係の透明性に関する指針」をウェブサイトで公開  
・農薬安全使用のために現地指導を継続実施

## お取引先・投資家への取り組み

2012年度の目標  
・原材料および間接材のグリーン調達実績の集計を実施  
・適切な決算説明会・取材対応・情報開示により株主の信頼を獲得する

評価



## 医療品情報センターと信頼性確保

医薬品情報センターでは、当社製品に関わるさまざまなお問い合わせを、医師・薬剤師や特約店などの医療関係の皆さま、そして患者の皆さまや一般の方からいただいています。

日本化薬が提供する医薬品・医療機器がお客様にとって「最良の製品」となるよう、医薬品情報センターでは「適正使用情報」をお伝えすることをモットーとして、一つひとつのお問い合わせに對し的確にそして丁寧に回答することを心がけています。私どもの回答がお客様のご期待にお応えしているか、医療関係の皆さまへのアンケートを行い、改良・改善を実施しています。また、医療施設へ訪問する医薬情報担当者(MR)と連携し、患者の皆さまのお役にたてる情報をご提供できるよう努めるとともに、お客様からのご要望やご意見を社内の各担当部門に報告・提案していきます。

医薬品情報センターでは、「すべては適正使用の推進と顧客満足向上のために」をスローガンとし、より良い医療に貢献してまいります。

76製品  
全製品に対応  
(2013年8月現在)



医薬品情報センター

## 農薬の正しい使用方法の指導

アグロ事業部は、「クロルピクリン」を有効成分とする「カヤククロールピクリン」、「ドジョウピクリン」、「クロピクフロー」などのクロルピクリン剤を販売しています。

この製品は、土壌に生息し農作物の生育に有害な病原菌や害虫を防除する土壌くん蒸剤として、現代日本農業に不可欠な農薬です。そして、効果が高かつ作物に残留しないことから販売開始から半世紀以上経ちますが、未だに広く使用されています。

しかし、クロルピクリン製品が気化したガスは、吸入毒性が高く、目や皮膚への刺激性も高いため、使用方法を間違えると目やのどなどの痛みだけでなく、命に関わる事故に繋がる可能性があるため細心の注意を払って取り扱わなければなりません。

そこで、クロルピクリン剤の説明会を開催し、お客様には効果だけでなく、安全かつ適切に使用方法を説明・



「クロピクフロー」の現地講習会

指導させていただいています。たとえば、「クロピクフロー」の現地講習会は、使用される地域を中心に毎年実施しています。

## グリーン調達からCSR調達へ

原材料調達については、環境負荷低減に該当する品目の選定を進め、購入した数量、金額などの情報を把握するシステムを整備しています。また、間接材購買においては、電子購買システムを介してエコマーク商品やグリーン購入法対象商品の選定を容易にする電子カタログを掲載することにより、間接材の購入に環境に配慮した商品の購入に誘導し、これらの商品の購入を促すよう取り組んでいます。



現在、CSRの観点から、原材料購買に関する対外的な

指針を提示し、お取引先と共同でCSR活動を推進する体制の整備を検討しています。

当社は、国内外に多数の製造拠点を有し、多角的な事業を行っています。このような状況に応じて、当社が果たすべき社会的責任、環境責任はグローバルに拡大していると認識しています。企業は経済的責任だけでなく社会の構成員として負うべき社会的責任、環境責任を意識した存在であるべきと考えます。これら3つの観点から、お取引先各社との協働により、お客様ひいては当社の製品を用いて製造される商品を使用される消費者の皆さまに対する安心・安全を提供できるものと考えています。

## 投資家の皆さまとのコミュニケーション活動

### ■決算説明会の実施

機関投資家や証券アナリストを対象とした決算説明会を、第2四半期決算および年度決算後に開催しています。日本化薬からは社長をはじめ全役員が出席し、決算や業績見通し、今後の取り組み方針を説明しています。



決算説明会

### ■個別ミーティングの実施

機関投資家や証券アナリストと直接コミュニケーションを取る個別ミーティングを実施しています。

### ■工場見学会の実施

日本化薬の事業活動に対する理解を深めていただくため、機関投資家や証券アナリストを対象とした工場見学会や研究開発説明会を毎年実施しています。

109回  
投資家訪問回数  
(2012年度は10カ月の短縮決算)

# 社会的責任を果たすCSR活動

## 従業員への取り組み

企業の主体は“人”。日本化薬グループは、従業員が安心して働ける環境の中で一人ひとりが持てる能力を発揮し、仕事を通じて社会に貢献することで働きがいを感じることが大切だと考えています。

### アクションプラン

・安全な職場環境を実現する

### 評価



### 2012年度の目標

- ・安全性のレベル向上を目的とし、火薬安全教育を実施する
- ・メンタルヘルス研修実施

## 社会への取り組み

日本化薬グループは、ステークホルダーのひとつである地域の皆さまとコミュニケーション活動を活発に行い地域に根付いた会社でありたいと願っています。

### アクションプラン

・社会の健康に貢献する

### 評価



### 2012年度の目標

- ・ピンクリボン活動の継続
- ・「あすなるの家」の継続的な管理運営

## 火薬安全維持活動

セイフティシステムズ事業本部は、自動車用安全部品であるエアバッグインフレーター、マイクロガスジェネレーターおよびこれらの点火具であるスクイブを製造しています。どの製品にも取り扱いに十分な注意を要する火薬類を使用しています。

3段階を考え、検討し、対策をたてることを基本とします。火薬保安管理技術は、セイフティシステムズ事業本部全員の共通の知識となりましたが、現在も定期的に講義を継続し、全員の安全意識と知識の向上に努めています。

セイフティシステムズ事業本部では、所属する従業員を対象に、2009年から「火薬保安管理技術」の講義を開始しました。火薬の安全確保は、①発火（爆発）の抑制、②伝火（伝爆）の制御、③被害の最小化の

事業本部全員が火薬保安管理技術の一般知識を習得した次のステップとして、特に安全管理が必要な製造現場では「管理職、係長・主任クラス、現場責任者、作業員」と階層別の火薬取り扱いの安全教育を進めています。これは、各階層の人が自分の知識や考え方を自分の言葉で、次の階層の人を教育することが大切であると考えたからです。まさに事業本部に属する全員の安全意識の向上を図ろうというのが、火薬安全管理技術維持活動です。

### 安全教育参加者のべ数

129人

## メンタルヘルスへの取り組み

メンタルヘルスクアでは従業員全員が、正しい知識・認識を持ち、メンタル不調の早期発見・予防に努めることが大切です。特に「メンタル不調を予防することを第一に考える」取り組みを重点に全従業員対象に継続的に実施しています。

ル目をスタートしました。管理者研修は「早期発見のために兆候と具体的な対応を考える」、一般職研修は「ストレス耐性向上研修」で、受講生からは「正しい知識が得られた。予防には何が重要であるかについて認識できた。」など好評でした。また、「カウンセラーに気軽に相談できる」気運が高まり、カウンセラー相談件数が増加する傾向が見られ、着実にメンタル不調の未然防止に繋がるものと考えています。

社外よりEAP<sup>※1</sup>の講師を招き2005年度に第1回目の研修を開催し全従業員が受講しました。2006年度からは3年を1クールとし継続的に全従業員が1クール内に一度は受講できるよう全国各地で年に数十回実施し、2011年度までに2クールの研修を終了しています。2012年度からは3ク

一方、メンタル不調によって休養を余儀なくされた方の職場復帰については、「復職プログラム」を策定し、職場の上司（会社）、産業医、EAPが三位一体となって、再発予防を念頭においたスムーズな職場復帰を支援する体制を整えています。

### メンタルヘルス受講者数

1,110人  
2012年度

※1【EAP】(Employee Assistance Program)従業員支援プログラム。



メンタルヘルス研修風景

## ピンクリボン活動

当社では、乳がんの早期発見・早期診断・早期治療の大切さを伝えるピンクリボン活動を2004年度から独自に開始し、2012年度で9年目となりました。

活動内容は、乳がん関連のウェブサイトの運営・社員の「ピンクリボンバッヂ」の着用・「自動車用ステッカー」の貼付・啓発グッズの配布などを行っています。ピンクリボン啓発グッズの配布は本社最寄り駅で例年行ってきましたが、2012年度は全国事業場（(株)日本化薬福山・厚狭工場・高崎工場・姫路工場・東京事業所等）の最寄り駅周辺で配布し、乳がん検診の大切さを呼びかけました。



### ピンクリボン活動年数

9年目

## VOICE

ピンクリボン活動街頭キャンペーンに参加して  
医薬開発本部 葛西 彩香

初めは少し緊張しましたが、ピンクリボン活動を通じて地域の方々の温かい笑顔に触れ合うことができ、とても新鮮で有意義な時間を過ごせました。この活動の中で、「ピンクリボン活動って何?」「乳がん検診ってそんなに大事なの?」……そんな声をたくさん耳にしました。これを機に、地域の方々に乳がん検診について少しでも意識をしてもらえたらと思っています。



## 難病とたたかう子どもと家族の滞在施設「あすなるの家」

「難病とたたかう子どもと家族の手助けを」を合言葉に、創立80周年の記念事業の一環として、埼玉県さいたま市に介護者用滞在施設「あすなるの家」を開設し運営しています。この施設では、利用者のプライバシーを守るとともに、闘病生活を送る子どもを持つ親同士が交流を図ることができ、介護者の方の精神的負担を軽減する手助けとなるよう工夫しています。

## VOICE

「あすなるの家」今日この頃  
ハウスマネージャー 安井 秀夫

「あすなるの家」も設立後14年経ち、ハウスマネージャーも私で3代目。10室ある個室の利用稼働率が80%を超える月もあり、忙しい中何かと流されそうになりがちです。このような中であっても、ご利用者との日頃の会話やアンケートなどからご希望、ご要望を引き出し、安心して滞在いただくために改善へと繋げるよう心がけています。一例として、洗濯機・乾燥機の使用状況を一目でわかるように利用部屋ナンバーを各機器に貼り付けるマグネット板の設置などを進めています。すべてのご希望に応えることは難しいですが、引き続きできる限りのことをしていきたいと思っています。



153家族  
年間\*利用家族数  
※2012年1月1日～12月31日

⇒ウェブサイトに、詳細を掲載しています。  
<http://www.nipponkayaku.co.jp/csr/social/asunaro.html>  
連絡先電話番号:048-658-5861